

# 岐阜県における母子保健福祉推進のための援助方法に関する基礎的研究報告 (岐阜県母子保健計画にかかるベースライン調査)

出井美智子 服部律子 長谷川佳子 諸岡豊子 石井康子 堀内寛子 田中千代 藤迫奈々 重清水智美 茂本咲子 兼子真理子 栗田孝子 (大学) 奥村佳子 (岐阜県児童家庭課) 居波由紀子 (本巣山県センター) 泉五十鈴 (川島町保健センター) 大平邦子 (根尾中学校)

## I はじめに

「健やか親子21」で目標とされる健康で幸福な子どもと家族の実現を図るために、先ず、子どもと家族の現状と課題を把握・分析する必要がある。

おりしも、県庁児童家庭課より母子保健計画策定のためのベースライン調査の委託を受けた。この調査内容は岐阜県の妊娠・出産・育児期にある母親および乳児期の子どもについての現状、保健福祉サービスの利用、母親の育児不安などであり、本研究の目的とも一致するため、乳幼児とその母親の現状把握についてベースライン調査を充てることとした。

本研究の課題は乳幼児期だけでなく学童期、思春期を含めたものであるが、本年度は乳幼児とその母親に焦点を絞り、育児援助の観点からその一部を報告する。

## II 目的

岐阜県における妊娠・出産・育児に関わる母親、保健福祉の実態を把握し、母子保健福祉推進のための援助方法を探る。

## III 方法

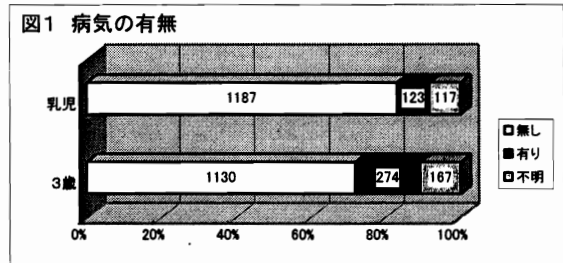
県下で平成13年7月～8月に保健所、保健センターで実施された乳児検診、3歳児検診受診者の母親を対象。

前もって調査表を郵送しておき、記入して検診日当日持参してもらう留め置き調査とした。回答総数は乳児1427、3歳児1571である。

## IV 結果

これまでわかっている病気について：「ない」が乳児では83.2%、3歳児では71.9%であり、何らかの病気をもっている児は8.6%、3歳児で17.4%と3歳児は2倍多い。(図1)

その疾病の内訳は、乳児では多い順にアトピー



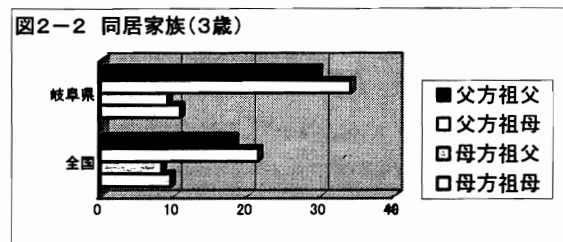
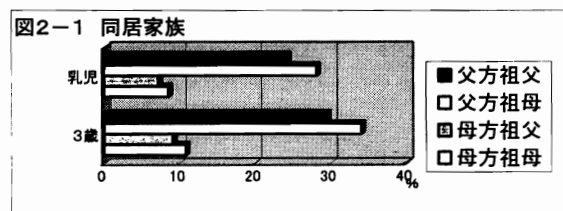
性皮膚炎、心臓病、発疹、ぜん息などであり、3歳児では多い順にアトピー性皮膚炎、ぜん息、心臓病、アレルギー性鼻炎、中耳炎、運動遅延、身体遅延、アレルギー、言葉遅延など疾病の種類は乳児より多くなっている。

住居について：一戸建ては乳児では66.4%、3歳児では77.4%、集合住宅は乳児で32.7%、3歳児で21.7%であり、一戸建ては3歳児の方が10%程度多い。

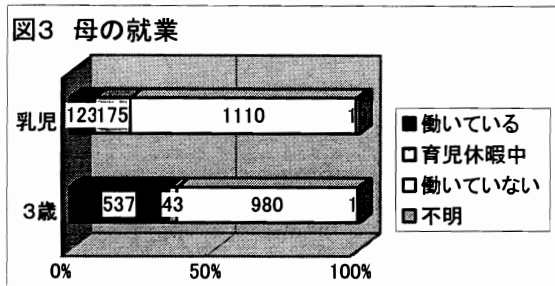
同居家族について：父方の祖母との同居は乳児で28.1%、3歳児で34.0%、母方の祖母との同居は乳児で8.5%、3歳児で10.8%、全体でそれぞれ31.2%、9.7%であった。(図2-1)

3歳児について全国調査と比較すると母方の祖父母との同居は全国とあまり差はないが、父方の祖父母との同居は全国に比べ10%程度多い。

(図2-2)



母の就業について：現在就業している者は乳児で8.6%、3歳児で34.2%、育児休業中の者は乳児で12.3%、3歳児で2.7%であった。（図3）



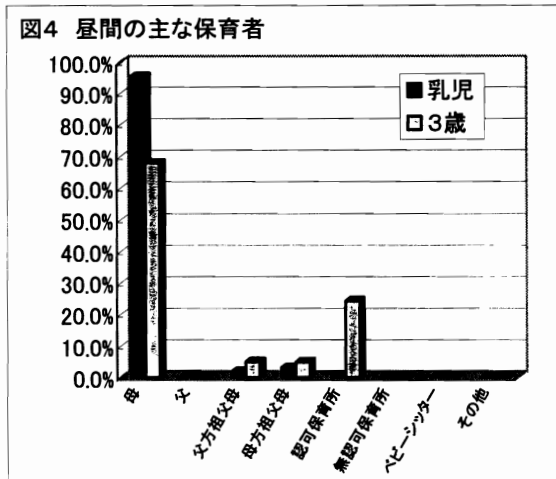
現在働いている者と育児休業中の者の勤務形態について「常勤」は乳児では52.0%、3歳児では25.2%、「パートタイム」は乳児で15.4%、3歳児で44.8%、「自営業」は乳児で26.2%、3歳児で20.7%、その他は乳児で5.0%、3歳児で7.9%であった。

現在の就業についての満足度：「満足」、「どちらかという満足」を合わせると乳児は56.5%、3歳児は58.3%、「どちらかという不満」、「不満足」を合わせると16.2%、18.2%であった。

昼間の主な保育者：母親が主に保育をしているのは、乳児では95.5%、3歳児では67.9%、父方の祖父母が保育しているのは乳児では2.0%、3歳児では5.2%、母方の祖父母が保育しているのは乳児では3.3%、3歳児では5.0%であった。

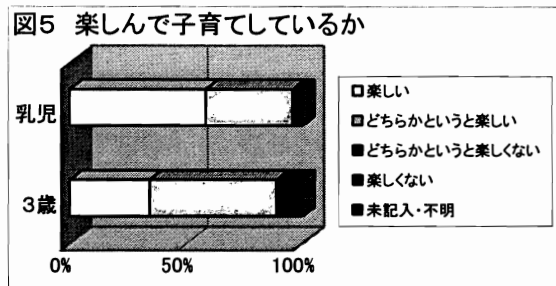
(図4)

乳児、幼児とも父方祖父母との同居が母方祖父母との同居の約3倍あるにもかかわらず、乳児の昼間保育者は母方の祖父母の方が多い。

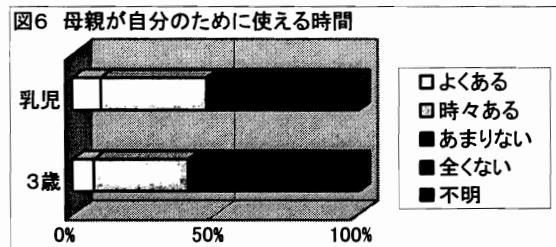


母親の調子について：「心身ともに快調」は乳児で71.3%、3歳児で65.6%、「精神的に不調」は乳児で14.4%、3歳児で17.6%、「体が不調」は乳児で10.1%、3歳児で8.2%、「心身ともに不調」は乳児で3.6%、3歳児で7.0%であった。

子育てについて：子育てを「楽しい」、「どちらかという楽しい」を合わせると乳児では95.9%、3歳児では88.9%であり、「どちらかという楽しくない」、「楽しくない」を合わせると乳児では3.4%、3歳児では10.1%であった。（図5）



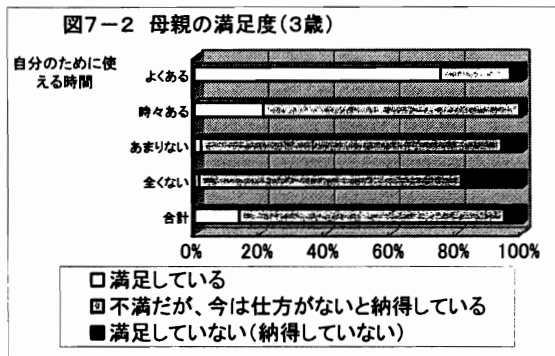
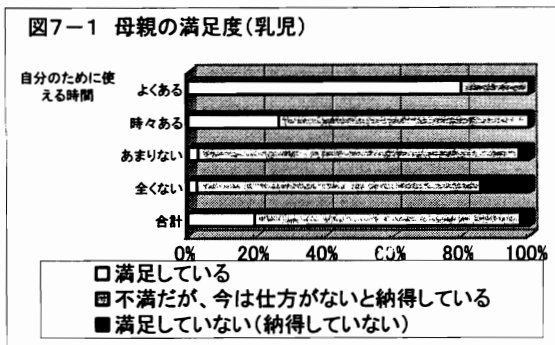
母親の時間について：自分のために使える時間は「よくある」、「時々ある」を合わせると乳児では46.9%、3歳児では40.4%、「あまりない」、「全くない」を合わせると乳児では52.4%、3歳児では59.2%であった。（図6）



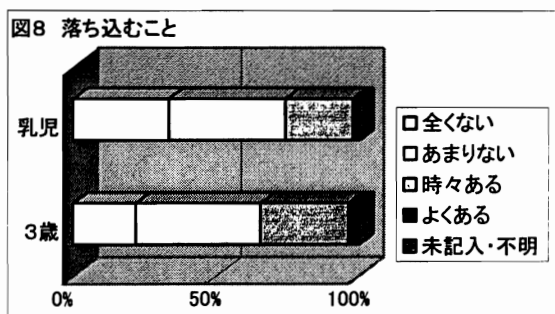
このことについて「満足している」は乳児では19.0%、3歳児では13.4%、「不満であるが今はしかたがない」は乳児では77.0%、3歳児では80.4%、「満足していない」は乳児では2.7%、3歳児で5.3%であった。

母親が自分のために使える時間と満足度の関係を見ると自分のために使える時間がよくある乳児・幼児の母親は75%以上が満足しているが、「自分のために使える時間があまりない・全くない」母親は不満を感じている者が増える。

(図7-1、7-2)



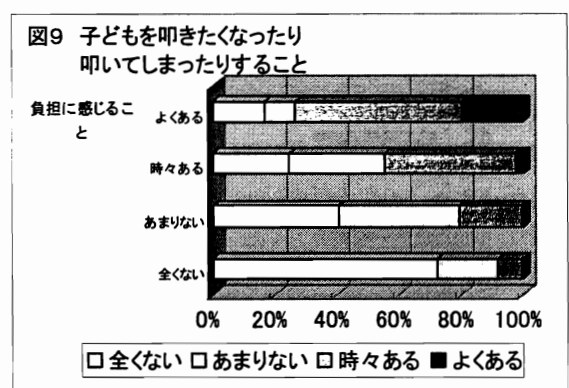
育て方について：育て方や子どもとの接し方がわからず落ち込んでしまうことは、「全くない」と「あまりない」を合わせると乳児では74.1%、3歳児では65.4%、「時々ある」と「よくある」を合わせると乳児では25.5%、3歳児では34.1%であった。(図8)



子育てに負担を感じること：「全くない」と「あまりない」を合わせると乳児で69.9%、3歳児で59.9%、「時々ある」と「よくある」を合わせると乳児で29.4%、3歳児で39.6%であった。

イライラして子どもを叩きなくなったり、叩いてしまったりすること：「まったくない」と「あまりない」を合わせると乳児74.9%、3歳児で39.6%、「時々ある」と「よくある」を合わせると乳児で24.6%、3歳児で60.0%であった。

(図9)



お父さんが相談相手、精神的な支えになっていること：「なっている」と「どちらかというとなっている」を合わせると乳児で83.9%、3歳児で75.5%、「どちらかというとなっていない」と「なっていない」を合わせると乳児で14.9%、3歳児で21.8%であった。

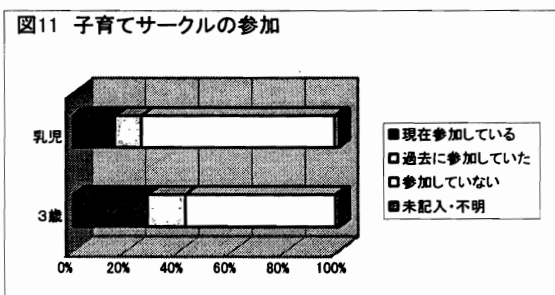
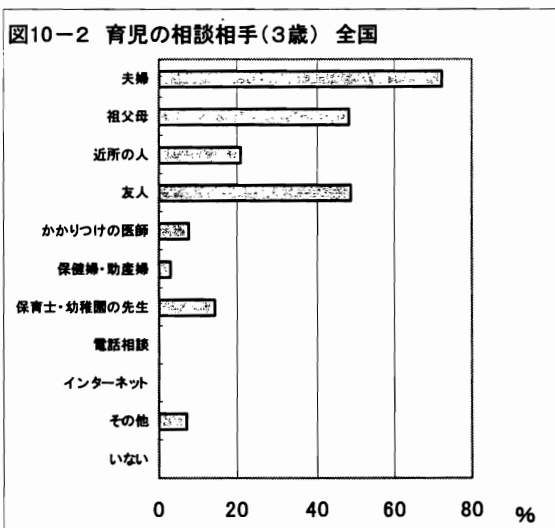
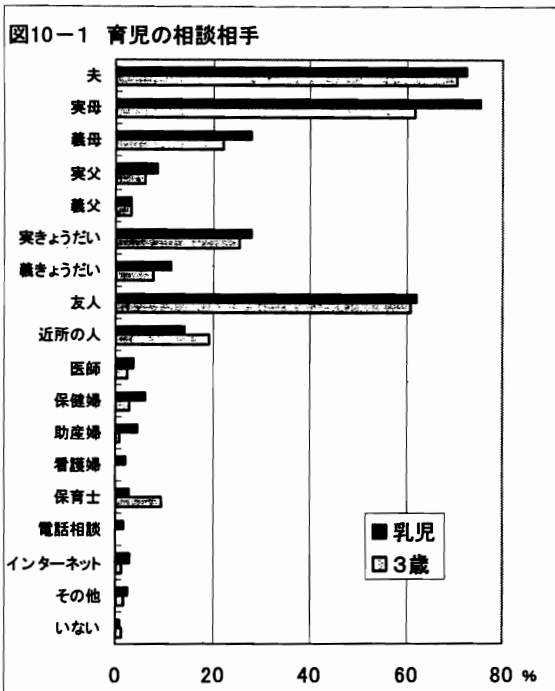
父親の育児参加や協力の満足度：「満足」と「どちらかという満足」を合わせると乳児で70.4%、3歳児で59.1%、「どちらかという不満」と「不満」を合わせると乳児で22.2%、3歳児で27.0%、「なんともいえない」は乳児で6.3%、3歳児で11.3%であった。

日常生活で育児の相談相手(複数回答)：

夫が相談相手は乳児で72.5%、3歳児で70.4%、実母が相談相手は乳児で75.5%、3歳児で61.7%、義母が相談相手は乳児で22.4%、3歳児で22.3%、実きょうだいが相談相手は乳児で28.2%、3歳児で25.4%、義きょうだいが相談相手は乳児で11.6%、3歳児で7.8%、友人が相談相手は乳児で62.2%、3歳児で61.0%、近所の方が相談相手は乳児で14.4%、3歳児で19.5%などであった。

全国の調査と比べると分類の仕方が多少異なるが同じような傾向である。(図10-1、10-2)

育児や家事で困った時、家族以外に助けを得ることのできる人：「近くにいる」は乳児で40.2%、3歳児で44.8%、「近くではないが常にいる」は乳児で32.7%、3歳児で25.5%、「どうしても困ったときだけ頼れる人はいる」は乳児で16.1%、3歳児で19.7%、「誰もいない」は乳児で8.6%、3歳児で8.0%であった。



子育てサークルの参加：「現在参加している」は乳児で15.9%、3歳児で28.0%、「過去に参加したことがある」は乳児で9.8%、3歳児で14.3%、「参加していない」は乳児で72.6%、3歳児で56.3%であった。（図11）

参加していない理由：「子育てサークルがど

のようなものかわからない」は乳児で26.0%、3歳児で16.4%、「どこにサークルがあるかわからない」は乳児で19.6%、3歳児で7.1%、「申し込みなど参加方法がわからない」は乳児で6.9%、3歳児で3.1%、「時間的余裕がない」は乳児で12.9%、3歳児で20.5%、「交通手段がない」は乳児で2.2%、3歳児で1.5%、「参加したくないため」は乳児で3.9%、3歳児で7.5%あり、乳児では「子どもが小さいのでもう少ししたら参加したい」が19.5%あった。

保健・医療・福祉サービスについて：乳児でサービスを利用したのは、市町村（保健所）の新生児（乳児）訪問が36.5%、退院後の助産婦による乳房管理が19.9%、市町村（保健所）実施の乳児相談が21.7%、市町村実施の電話相談が4.0%などであり、新生児訪問については74.6%、助産婦による乳房管理については74.3%、乳児相談については71.8%、電話相談については58.3%の利用者が満足していた。

サービスを利用しなかった理由のうち、「サービスの存在を知らなかった」は、産後の家事手伝いが48.0%、市町村（保健所）の新生児訪問が47.4%、退院後の助産婦による乳房管理が43.2%、市町村実施の電話相談が28.7%、市町村実施（保健所）実施の乳児相談が24.8%であった。

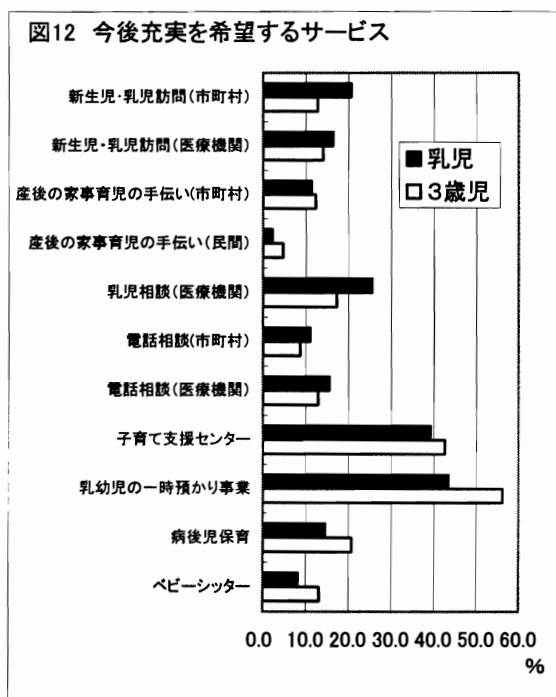
3歳児でサービスを利用したことがあるのは市町村（保健所）実施の乳児相談39.5%、市町村実施の育児教室30.0%、市町村実施の電話相談4.5%であり、育児教室については56.4%、乳児相談については52.4%、電話相談については38.4%の利用者が満足していた。

利用しなかった者でその理由のうち「サービスの存在を知らなかった」は、市町村実施の育児教室28.2%、市町村実施の電話相談24.8%、市町村（保健所）実施の乳児相談10.7%であった。

今後充実を希望するサービス：乳児では、乳幼児の一時預かり43.5%、子育て支援センター39.3%、乳児相談（市町村）22.0%、乳児相談（医療機関）25.6%、新生児・乳児訪問（市町村）20.7%、乳房管理（市町村）20.5%、電話相談（医

療機関) 15.6%、病後児保育 14.7%、産後の家事の手伝い(市町村) 11.4%電話相談(市町村) 11.1%であった。

3歳児では乳幼児の一時預かり 56.2%、子育て支援センター 42.5%、病後児保育 20.8%助産婦による乳房管理 19.3%、乳児相談(医療機関) 17.3%、新生児・乳児訪問(医療機関) 14.1%、乳児相談(市町村) 13.8%、ベビーシッター 13.2%、新生児・乳児訪問(市町村) 12.8%産後の家事・育児の手伝い 12.4%である。(図12)



市町村実施の乳幼児検診で強化して欲しいこと(3歳児のみ): 病気の有無の確認 35.7%、成長の確認 32.9%、遊び方や接し方の確認 28.3%、育児方法の指導 24.6%、お母さん同士の情報交換 23.5%、子どもの友達づくり 23.1%、医師による個別相談 22.0%、心理相談による個別相談 20.8%、歯科保健指導 15.9%、事故予防について 12.95%、栄養指導 12.2%であった。

## V 考察

### 1 子どもをめぐる環境

子どもが住んでいる住居についてみると、3歳児の全国調査では一戸建て 55.0%、アパート・集合住宅 44.3%に対し本県は 77.4%と 21.7%であり、住環境については恵まれているといえよう。

同居家族については3歳児について全国調査

と比較すると母方の祖父母との同居は全国とあまり差はないが、父方の祖父母との同居は全国に比べ 10%程度多く、日本の伝統的な風習が残っていることがうかがわれる。

昼間のおもな保育者についてみると、母が保育者になっているのは乳児では 95.5%であるが、3歳児になると減少し 67.9%となる。このことは母親の就業に関係し、子どもが大きくなると母親が仕事につき保育を他にゆだねるからであろう。

祖父母の保育については父方の祖父母との同居が母方のそれの約3倍あるのにもかかわらず、乳児の昼間保育者が母方の祖父母の方が多いことは母親が自分の親のほうが気兼ねなく頼めることと思われる。

これまでにわかっている子どもの病気については乳児の 8.6%、3歳児の 17.4%が病気を持ち、乳児ではアトピー性皮膚炎、心臓病、発疹、ぜん息など、3歳児では上記の疾患に加えアレルギー性鼻炎、中耳炎、運動遅延、身体遅延、アレルギー、言葉遅延など発達上の問題も出現し、乳児・3歳児ともアレルギー性疾患が目立つ。

### 2 母親について

現在就業している母親は乳児で 8.6%、3歳児で 34.2%であるが、育児休業中のものはそれぞれ 12.3%、2.7%であり乳児が多い。また、育児休業中の者をあわせた勤務形態について常勤は乳児 52.0%、3歳児 25.2%、パートタイムはそれぞれ 15.4%、44.8%であった。この現状に対して「満足」「どちらかという満足」を合わせると五十数パーセントあった。子どもが小さいうちは母親が仕事をするのはむりだという意識と思われる。

これらの現象から働く意欲があり、また、環境が整っている母親は常勤という勤務形態をつづけ、そうでない、あるいは子どもが小さいうちは傍にいたい母親は育児に専念し、子どもが成長すればパートタイムなど子どもの育児に時間を取りやすい勤務形態をとることが考えられる

母親が自分のために使える時間がない母親は

不満が増え、「育て方について落ち込んでしまうことがある者」は乳児で 25.5%、3歳児で 34.1%あり、「イライラして子どもを叩きなくなったり、叩いてしまうことのある者」は乳児で 24.6%、60.0%あった。

今後充実を希望するサービスとして、「乳幼児の一時預かり」、「子育て支援センター」、「乳児相談」、「産後の家事・育児の手伝い」が比較的多いことを考慮すると、母親が心身ともにゆとりを持って育児をするためには、困った時に相談にのってくれる人がいる。時には母親が自分のための時間をもてることが望まれる。

## VI まとめ

本県の乳幼児を持つ約三分の一の母親は父方の親と同居し日本の伝統的な風習の中にあることがうかがえる。しかし、子育てなどについての相談は自分の親にする方が多い。また、子どもにかかる手が離れると仕事に就き、大部分の者が子育てを楽しみ、自分自身のために使える時間は 40 数%のものが持ち「不満もあるが、今は仕方がない」とあきらめていることがわかった。

しかし、30～40%の母親は育児に自信をもてなくなったり、落ち込んでしまうことがあり、このような時に、気軽に母親の相談にのったり、元気づけたり、母親が自分のための時間を持てるような支援の必要性が示唆された。